

パーティーの招待状を受け取るのはうれしい。だが「ドレスコードを見て気後れすることも多い。」

「エレガントカジュアル」

いったい何を着ればよいのか? そもそもドレスコードって何のためにあるのでしょうか?

日本マナー・プロトコール協会

ドレスコードは悩ましい?

事務局長、明石伸子さんは、次のように答えてくれた。「主催者がどんな雰囲気のをにしたいと思ってるのか、そのイメージを表すのがドレスコードです。私的な集まりでのドレスコードの場合、自分の個性を表現するおしゃれ以上に、場が集まる人の目線に立ってみて不快感を与えないか、その気

配りのほうが大切です」

自分よりも他人の気持ちにスポットを当てる……。そうか、妙な自意識から解放されれば、かえってラクに服選びができるかも。

「ええ。マナーって実はご自身のためにもなる合理的なもの。例えばお礼状を書くとき、形式どお

りに書けば、たちまち文面が埋まって便利でしょう?」と明石さんなるほど。形式があればこそ、不器用な心情も形式の中に溶かし込んで、スマートに届けることができるわけですね。相手にも自分にも、精神的負担が少ない。

「ドレスコードも、決められていれば、全く自由な場合ほど悩ま

コロモのココロ

中野 香織の

なくていい。ドレスコードも含むマナーとは、話を早くする標準語のようなもの」というお話にうなずいて帰ったその日、ポストに一通の封書を見つけた。

万年筆で書かれた、丁寧なあいさつ状。がっしりと心をつかまわってしまった理由は、差出人の意外性である。仕事で会った「いまだき」感濃く漂う若い人で、いわばマナー期待値の低かった人が完璧なマナーで接してくれた、その驚きが感動に変わったのである。

ここ一番のマナーは、普段のイメージを一発逆転させて心をつかむ、社交技法にもなるらしい。普段着を豪華なアクセサリー一つで「エレガントカジュアル」に変えるような、高度なテクニクではありそうですが。(服飾史家)